

命と水の大切さ

志學館中等部

三年

脇^{わき}

莉音^{りおん}

私は、中学二年生の時美術の授業で生きるためのデザインを学びました。その中で「転がる水」というデザインに出会いました。南アフリカ共和国にあるノーバデイ村では水の運搬に苦勞してきた地域で毎日きれいな水を得るために何百万もの人々が長い道のりを水を入れたポリタンクをいくつも手で持ったり頭の上に載せて家まで歩いている現状です。さらに、私はこの学習で目にした写真に驚きました。それは、子供が多くポリタンクをかかえて水をくみにいく写真でした。私より小さな子供が清潔な水を求めて、かかえきれないほどのポリタンクを運んでいる姿に言葉が若くして命を落とす原因の一つが泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水を飲んでいるこの現状にも驚きました。これにより、毎日約八百人以上の子供達が命を落と

しているといいいます。子供達は、生きるためにきたない水を飲むことしかできません。

しかし、この現状を解決するためにあるデザインーによって、ドーナツ形のタンクの穴にロープを通した「Qドラム」が作られました。このデザインのおかげで手でポリタンクを運ぶよりも大量の水を運ぶことができるようになった。これは画期的なことだと思いましたが、

また、一昨年亡くなった医師の中村哲さんは私財を投じて、アフガニスタンで用水路をつくり、現地の人々に清潔な水を供給してきました。

「百の診療所より一本の用水路を」

この言葉は中村さんの言葉ですが、私は最初この意味がよくわかりませんでした。自分の中で発展途上国では医療が発展していないから診療所が大事だと思っていました。でもさきほど述べたように、発展途上国の子供達が命を落とす原因を知って「そういうことなん

だ。」と納得しました。

私たちは普段、蛇口をひねれば水がでてきます。使いたい時に水を使うことができます。私は、幸いにも大きな自然災害などに遭ったことがないので水に困ったことがありません。ですから、水をくむ子供達の写真を見、また文章を読んだ時どれほど自分自身が送っている日々の生活が幸せなことなんだと改めて感じました。それは私たちが、毎日重いポリタンクをかかえて長い道のりを歩かなくてもいいし、清潔で安全な水を使用することができるからです。

このように、清潔な水を必要としている人のために活動し、多くの人々の命を救ったこの功績にとても感動しました。そしてまだ改善されていない地域があり、命を落とす人々がまだいることに心が痛みます。

二〇三十年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標「SDGs」の中の六番目に「安全な水とトイレを世界中に」という目標があ

ります。美術の授業や中村哲さんの功績を通して、もっと水を大切に使っていきたいと思っています。

水資源にはいつか限度があります。もしかしたら今のようになりたいときに水が使えなくなるかもしれません。そんなことにならないために、そして汚れた水のせいで命を落とす人々が減るために一人一人が節水することです。そんな未来を阻止することができると思いますが。私たちにできることは、手を洗うときに洗い流す前に水を出しっぱなしにしたり食器を洗うときに水を出しっぱなしにするのを止めて水を無駄遣いしないようにしていくことだと思っています。

そして、この気持ちを忘れずに、水というものの大切さを心にとめておきたいと思っています。